

# 保育学生の抱く理想の保育者像の研究

——テキストマイニングを用いた分析を通して——

渡 辺 直 人

# 保育学生の抱く理想の保育者像の研究

## ——テキストマイニングを用いた分析を通して——

### Research on the ideal image of nursery teachers held by childcare student -Analysis by text mining-

渡辺 直人

Naoto Watanabe

#### 要 約

現在、保育や子育て、子どもをめぐる問題が多く存在している。都市部の待機児童問題、子どもの虐待の増加、度々報道される不適切な保育、それだけではなく子どもの体力や健康、生活の変化等、多くの問題が浮き彫りとなっている。そのような中で、それら問題解決の一つとして、よりよい保育者の育成が求められているといえよう。そのためにも、保育者養成に関連する基礎的研究が求められる。本研究では保育者養成の発展の一助として、理想の保育者像を明らかにし、さらに先行研究と比較し理想の保育者像の共通項を探った。調査方法は、アンケート調査を行った。自由記述での回答を求め、テキストマイニングを行った。

その結果、「保護者」、「優しい」、「寄り添う」、「気持ち」、「明るい」、「信頼」、「笑顔」、「元気」、「理解」、「子どもが好き」というイメージがあることが明らかとなった。また、先行研究との共通項として、「優しい」、「子どもが好き」が挙げられた。

#### 目的

現在、保育や子育てに関して多くの問題が浮き彫りとなっている。都市部の待機児童問題、子どもの虐待の増加、度々報道される不適切な保育、それだけではなく子どもの体力や健康、生活の変化等、多くの問題が浮き彫りとなっている。

例えば待機児童に関しては、全体の 82%の自治体は、待機児童は0人である一方で、17.8%の自治体は1-99人ほどいると答えており、1.1%の自治体は50人以上存在すると回答している。特に都市圏において待機児童数が多い傾向があり、まだ解決したとはいえない難しい問題である。早急な支援が必要であろう。<sup>[1]</sup>

また、虐待に関しては毎年のように増加しており、令和2年も20万5029件(速報値)と過去最高を記録した。記録上では減少した年度は存在せず、今後も予断を辞さない危険な状況にあるといえよう。<sup>[2]</sup>

最近では毎年のように子どもの死亡事故が相次いでいる。

夏になれば必ずといってよいほど、遊技場に遊びに行った保護者が車内に子どもを置き去りにしてしまい子どもを亡くす悲惨なニュースが流れるほか、2021年でも保育所送迎バスが夏場に車内置き去りで子どもを亡くしてしまった事件が報道された。<sup>[3]</sup>

その他にも不適切な指導・対応も多く問題となっている。独自に開発した体操を取り入れた結果子どもを亡くした新潟県での事件や、過去の教育法令の一つを園児に暗唱させるといった幼児期の発達段階に沿っていない、保育とは思えぬ指導も記憶には新しい。

また、子どもの問題といえば、昨今では子どもの生活が変化しており、生活習慣が乱れ、子どもの健康が問題視されている。例えば朝食に関するデータを概観すると、2010年の子どもの朝食欠食の割合は3.6%であったが、2018年では5.5%に増加するなど、朝食欠食の割合は高まっている。<sup>[4]</sup>

以上、問題を挙げるに暇がないためここで割愛するが、昨

今では保育や子育てに関して多くの課題が指摘されており、早急な支援・援助・解決が求められている。

子どもの頃の育ちはその後の成長に大きな影響を及ぼす。そのような中で、就学前教育が一般化した昨今においては多くの時間を過ごす保育所・幼稚園が子どもの発達に大きな影響を及ぼすと考える。よりよい保育が望まれる昨今、保育の質をより高めるためにも、よりよい保育者の育成が必要となるだろう。

保育士になるためには、まず保育者養成校の学校に通い、資格を取得するか、もしくは教員資格認定試験を突破して資格を取得することで、保育士・幼稚園教諭になることができる。なお、幼稚園教諭は専門学校単体では取得できず(一部を除く)、短大や大学で教員免許を取得する必要がある。

この道中にある保育士・幼稚園教諭(以下、両者を含め保育者)を目指す学生(以下、保育者養成校学生)にとって、学業期間は理想像をはぐくむ期間となるだろう。学生は授業や実習を通して少しずつ生の保育を知ることで、自身の持つ子どもや保育に関するシエマを拡大・修正する。修業期間を通してイメージをより先鋭化させていき、理想像が徐々に具体化していくといえよう。

菊野ら(2017)は専門課程の学びに関して興味深い研究を行っている。菊野らは、教師を目指す大学生に対して PM 機能を測定した。その結果、教育系大学生は M 機能が強いことを明らかにしたが、しかしながら先行研究において高校生は P 機能が強いことを菊野らは指摘した。この差に関しては大学生と高校生の視点の違いと考察している(菊野ら、2017)。

ただし、その視点がどのように移行したかは言及していない。このことに関して、大学生の専門学科での教育学の学びや実習が、P 機能から M 機能の移行を促進させたという解釈も十分にありうることであろう。そしてこの考察を応用すれば、保育者養成校学生も同様に、保育に関する専門的知識を学ぶことで、自身のもつ保育者のイメージも移行すると考えられよう。

また、上記のような専門学科では、多くの学生がそれらに関わる専門職に就く。卒業・修了後に専門職に就き、その後の現職での経験・学びによっても変化が生じることが推測できる。

保育者像や教師像に関して、現職教員を対象とした調査は、J-Stage 及び大学等研究機関発行論文を筆者が調査した限りでは該当する先行研究が見当たらなかった。そのため、現段階では保育職・教職に就いてからどのように保育者像・教師像

が移り変わるかは明らかではない。ただし、上述した菊野らの研究では、専門課程の学生と一般高校生で PM 機能の違いがあることは明らかであり、学びによって移り変わることが考えられる。この結果を保育者の理想像に応用して考えれば、専門学科所属の学生と、その他属性の人物とでは思い浮かぶ理想像・一般像は異なることが考えられる。また、学びによって変化があるのであれば、学年別で理想像がことなることが想定され、専門課程学生と一括するのではなく区分する必要があると考える。そしてこれは小・中・高の教員養成のみならず保育者養成校でも同様のことがいえるであろう。加えて、学びが説明変数となりうるのであれば、現職と一括するのではなく、例えば新人、中堅、ベテランといったように区分する必要があると考える。

保育・教育は学習指導要領がおおよそ 10 年に 1 度変更がある。すなわちその時々々の社会情勢のニーズに沿った内容へと変化していくが、よりよい保育者の養成が危急的に求められている昨今、社会で求められている保育者の資質に迫るためにも、保育者像を明らかにすることは、保育者養成、保育者論の発展につながるであろう。

また、保育士を志願する学生がどのような保育者像をもっているかを調査することは、彼ら・彼女らが保育者になった際今後の保育職の動向や趨勢を把握するための基礎資料ともなりうる。そしてこれらを明らかにできれば、どのように志向して保育者養成に臨むことができるか考えられ、よりよい保育者養成に繋ぐことができよう。

以上のことから、本研究では以下を明らかにすることを目的にする。

- [1]保育者養成校学生がもつ理想の保育者像
- [2]保育士の理想の保育者像
- [3]その他属性の保育者像
- [4]保育者養成校学生、保育士の保育者像の変化

そして本稿では、この「[1] 保育者養成校学生がもつ理想の保育者像」を明らかにすることを目的とする。

## 方法

### (1)調査日時・対象者・場所

2021 年 4 月、関西地方 A 短期大学学生 75 名を対象に自

表1 品詞毎の出現回数

名詞	回数	動詞	回数	形容詞	回数
保護者	30	寄り添う	25	優しい	30
気持ち	22	頼る	14	明るい	21
信頼	20	好き	9	楽しい	8
笑顔	18	考える	9		
元気	17	もらえる	8		
理解	14	教える	4		
個性	6				
一人一人	5				

表2 テキストマイニングの結果

順位	語彙	出現回数	順位	語彙	出現回数
1	保護者	30	6	信頼	20
1	優しい	30	7	笑顔	18
3	寄り添う	25	8	元気	17
4	気持ち	22	9	理解	14
5	明るい	21	10	好き	9

注) 名詞・動詞・形容詞全体をまとめ、上位10語を抽出した。

由記述のアンケート調査(無記名)を行った。具体的には、QRコードを添付した用紙を配布し、スマートフォンで読み取らせ、Google Formにて回答するよう説明した。また、QRコード用紙は大学講堂内で配布した。

## (2) 分析方法

分析は User Local 社のツールを使用しテキストマイニングを行った。頻出語 2 以上の単語を対象とし、それらの出現回数の中央値を上回った単語を採択することとした。

## (3) 質問内容・調査の手続き

回答はオンライン上で取得した。具体的には、Google 社が提供する Google Workspace の一つである Google Form を用いた。質問文には「あなたの理想の保育者はどのようなイメージか教えてください。」と問うた。

## (4) 倫理的配慮

アンケートにおいては個人の倫理を十分に配慮し、個人情報には漏らさないこと、教育研究用途以外の目的には使用しないこと、無記名で行うことを伝え、アンケートの回答を依頼した。回答は無記名で行っている。

## 結果

### (1) アンケート調査の結果

学生 75 名を対象に保育者のイメージを自由記述で問い、回答をテキストマイニングで分析した。

まず、出現回数の結果に関して、それら単語を名詞・動詞・形容詞に分け、それぞれの 4 単語以上の出現回数を基準に、上位 8 単語を採用した。

結果、名詞では、「保護者」、「気持ち」、「信頼」、「笑顔」、

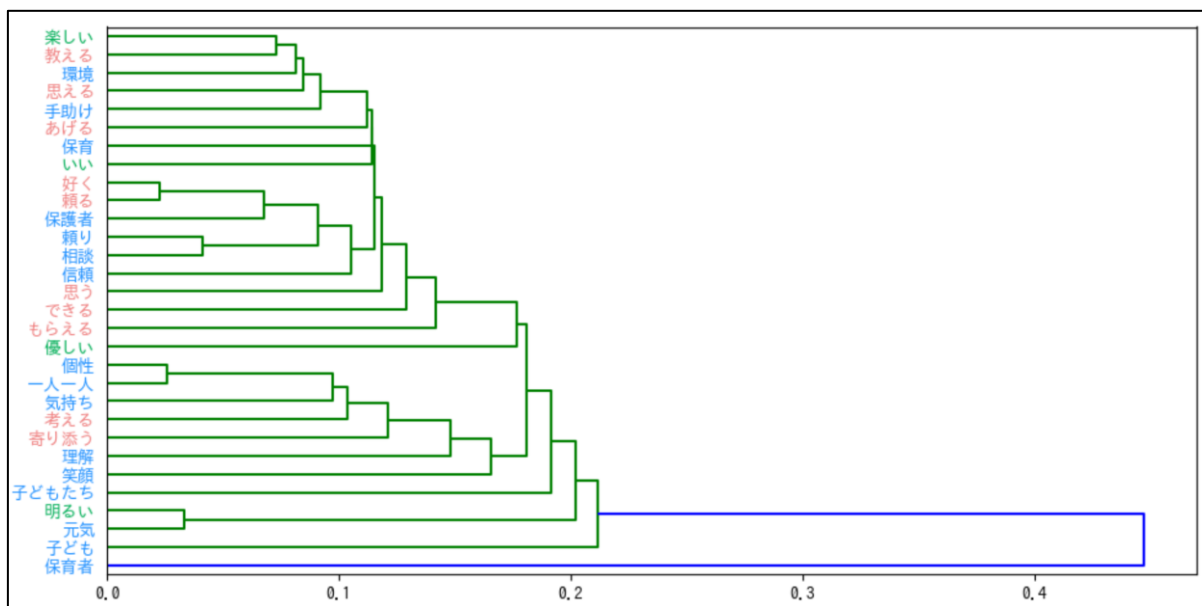


図1 階層的クラスタリングの結果

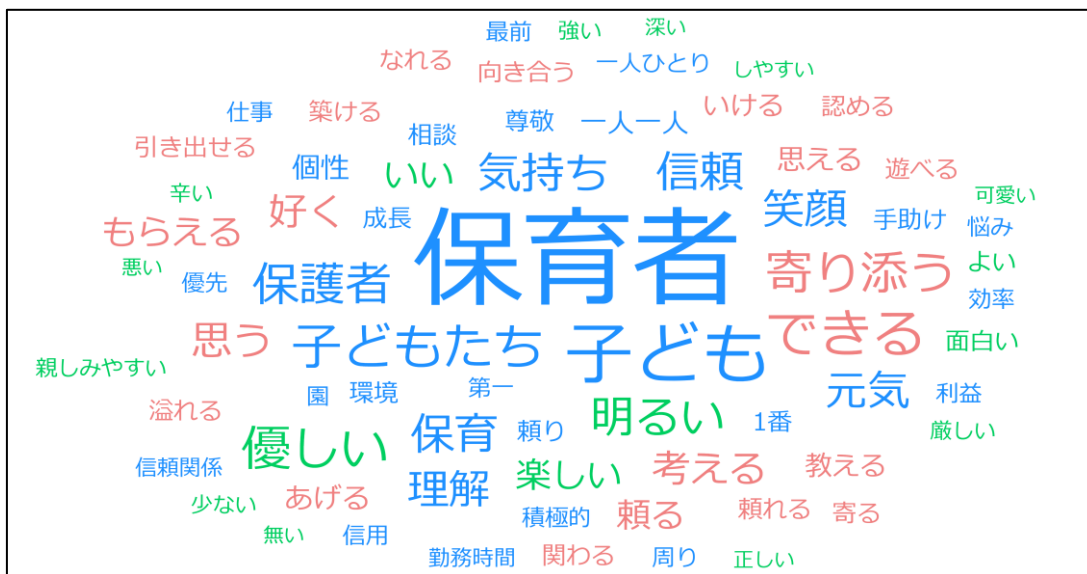


図2 共起ネットワーク図

「元気」、「理解」、「個性」、「一人一人」であった。動詞では、「寄り添う」、「頼る」、「好き」、「考える」、「もらえる」、「教える」であった。形容詞では、「優しい」、「明るい」、「楽しい」であった。

次にこれらをまとめ、出現回数が高い順に並び替えた。そのなかで上位10の単語を採択した。

その結果、「保護者」、「優しい」、「寄り添う」、「気持ち」、「明

い」、「信頼」、「笑顔」、「元気」、「理解」、「子どもが好き」の10ワードが抽出された。これらのことから、対人関係では保護者が含まれており、保育者としての資質・素質として、子どもが好きを前提として、優しさや明るさ、元気さ、笑顔・信頼性といった志向があることが明らかとなった。

なお、自由記述を外観し、「好く」という単語は「子どもが好き」

表3 「保育者」と共起した単語（共起回数順）

単語1	単語2	共起回数	単語1	単語2	共起回数
保育者	子ども	80	保育者	頼る	9
保育者	子どもたち	36	保育	保育者	9
保育者	保護者	31	保育者	考える	8
できる	保育者	30	もらえる	保育者	8
保育者	優しい	29	保育者	好く	8
保育者	信頼	26	保育者	思う	7
保育者	気持ち	20	保育者	相談	5
保育者	明るい	20	あげる	保育者	5
保育者	笑顔	18	保育者	思える	5
保育者	元気	16	一人一人	保育者	4
保育者	寄り添う	14	保育者	成長	4
保育者	寄り添える	12	保育者	手助け	4
保育者	理解	12	保育者	頼り	4
保育者	保育者	12	いい	保育者	4
保育者	出来る	11	保育者	環境	4
保育者	楽しい	10			

注) 共起パターンとは、文章の中に単語のセットが同時に出現することを指す (UserLocal 社の解説より)。出現回数3以上を対象に、保育者と共起した単語を抽出し、4回以上出現した単語を記載している。

という文脈での出現が多かったため、「子どもが好き」という一文で採択した。他、「子供」は「子ども」に、「子ども達」は「子どもたち」に、「良い」は「よい」に、「寄り添える」は「寄り添う」に、「出来る」は「できる」に統一した。

また、頻出語には、筆者の判断で「保育者」、「いい」、「保育」、「あげる」、「思う」、「いける」、「子ども」、「子どもたち」、「できる」は除外した。

次に、階層的クラスタリングの分析結果を以下に述べる。図1のクラスター表を概観した結果、主なクラスターとして、「楽しい」から「優しい」まで、そして、「個性」から「笑顔」まで、「子どもたち」から「保育者」までの3つのクラスターがあると考えた。

この結果に関して、全ての項目に「保育者」がかかっていることがわかる。すなわちこれら全項目が保育者の潜在因子ともみることができよう。

また、共起パターンも抽出した。共起とは、文章の中に単語のセットが同時に出現することを指す<sup>6)</sup>という。その結果、出現回数と類似した結果となった。この結果と出現回数の結果を比較すると、順位に差はあるものの、上位にランクインしている単語は特段相違ないものとなっているため、本稿では出現回数を採用することとした。

## (2) 先行研究との比較

保育者像の先行研究を探ったところ、豊田ら(1996)、清水ら(1996)が本研究に類した調査方法で研究を行っていた。現状と比較するためにも、この両者の研究と比較し、相違点、及び共通点を以下に述べる。

まず、豊田ら(1996)の先行研究を概観していく。豊田らは、男子大学生91名、女子大学生148名を対象に、「あなたがイメージする理想の保育所の先生(保母)(幼稚園の先生(教諭)、母親、父親)に当てはまる条件を3つ書いてください。」と問うている。その結果、男子大学生は、保育所保母に対し「やさしい」、「子どもが好き」、「母親代わり」というイメージを持っていることが明らかとなり、この順で出現率が高かった。また、女子大学生は「やさしい」、「子どもが好き」、「面倒見がよい」の順で高かった。

次に、清水ら(1996)の先行研究を概観していく。清水らは、保育士養成系学生1年生66名、2年生59名、教育系大学女子学生148名にアンケートを取得した。具体的には「あなたがイメージする理想の保育所の先生(保母)にあてはまる条件を3つ書いてください。」と提示し、その単語の出現回数を基に

理想の保育者像を分析している。その結果、「理想の保育所保育母に関する第一反応の出現率」において、保育士養成校学生 2 年生は「明るい」、「笑顔で接する」、「やさしい」、「元気がある」、「子どもの気持ちを理解する」の順で多かった。1 年生は「やさしい」、「笑顔で接する」、「子どもとの信頼関係がもてる」、「明るい」、「子どもとよく遊ぶ」の順で高かった。大学生は「やさしい」、「子どもが好き」、「面倒見がよい」、「温かい」、「子どもとよく遊ぶ」の順で高かった。

また、清水らは幼稚園教諭のイメージも同様の手法で分析している。保育士養成校 2 年生は「笑顔で接する」、「子どもの気持ちを理解する」、「歌やピアノが上手」、「元気がある」、「けじめがある」の順で高かった。1 年生は「やさしい」、「笑顔で接する」、「子どもとの信頼関係がもてる」、「明るい」、「歌やピアノが上手」の順で高かった。大学生は「やさしい」、「子どもが好き」、「明るい」、「元気がある」、「歌やピアノが上手」の順で高かった。

以上、清水の結果を述べた。これらをさらにまとめるため、高順位から、1 位は 5 点、2 位は 4 点、3 位は 3 点、4 位は 2 点、5 位は 1 点と点数を付し、合計点を算出した。そして、それらを中央値で高群、低群とわけ、高群のみを採択した結果、「やさしい」、「笑顔で接する」、「明るい」、「子どもが好き」、「元気がある」、「子どもとの信頼関係がもてる」のワードを抽出され、この順で高かった。

### (3) 共通項

以上、先行研究と共通していることとして、①「優しい」、②「子どもが好き」の 2 つが全ての先行研究において、③「笑顔(で接する)」、④「明るい」、⑤「元気」、⑥「信頼関係」の 4 つが清水の先行研究と共通していた。これらのことから、①と②は「理想の保育者像」の年代問わずに持たれている不朽のイメージとしてあることが明らかとなった。

## 考察

本研究では、保育者養成校学生がもつ理想の保育者像を明らかにすべく、学生 75 名を対象に自記式アンケート調査を行った。保育者のイメージを自由記述で問い、回答をテキストマイニングで分析した。その結果を、出現回数の高い順に並び替えた。その中で、出現回数上位 10 位単語を抽出した結果、「保護者」、「優しい」、「寄り添う」、「気持ち」、「明るい」、「信頼」、「笑顔」、「元気」、「理解」、「子どもが好き」の 10 ワードが

抽出された。

また、クラスター表(図 1)から、全ての項目が保育士にかかっていることから、全項目が保育士の潜在因子になっていることが明らかとなった。

また、先行研究を概観し、理想の保育者像の不朽的イメージを探った。全ての研究を対象に分析した結果、①「優しい」、②「子どもが好き」の 2 つが全ての先行研究において、③「笑顔で接する」、④「明るい」、⑤「元気」、⑥「信頼関係」の 4 つが清水の先行研究と共通していた。これらのことから、この①と②は「保育者像」の不朽のイメージとして採用した。

ただし、課題も少なからず存在する。本研究では分析方法にテキストマイニングを採用した。これらは単語の頻出度が算出されるが、主語がない分意味合いの方向性が不明確であるという点がある。例えば「成長」という単語であれば「子どもの成長」か、それとも「保育者の成長」なのか、どちらを示した言葉であるのか、結果表のみの解釈では意味が不明瞭である。そのため、テキストマイニングの解釈は慎重に行わなければならない。

分析の方法は数多あり、研究の趣旨や方向性、対象の属性などによりそれらは決まってくる。例えばこれを量的研究(例えば順序尺度を用い、「保育者とは、○○のような存在だと思う」にそう思わなければ 1 を、そう思うほど 5 を選ぶような手法)を用いることも考えられ、研究の特性によっては、この手法で調査を行う研究者もいるだろう。ただし、これはこれで一定の保育者像は明らかにできようが、保育者像を精査することは難しく、本研究の趣旨や方向性を考慮すると、やはり自由記述での分析が適していたと考える。

例えば、「保育士の仕事はプログラミングをすることである」という質問項目に対しては、そう思わないが多数を占めるであろう。しかしながら、ある程度該当する項目に関しては、そう思うが多数を占めるのではないだろうか。すなわち、天井効果、床効果が明らかに見られる手法である。細かく見るのであれば、選択肢を増やす、すなわち 5 件法ではなく 10 件法で実施することも考えられる。しかしながらこれでは再現性に欠ける。そのため膨大な被験者が必要である。以上からも量的研究では研究の実施運営に大きく不安が生じる。ただ、上述したよう、ある程度の分別はできよう。しかしながら細かく分析・検討は難しい。精査する場合は、量的研究よりも質的研究が望ましいのではないかと考える。

また、本研究では学生を一括りにして分析を行ったが、学

生によってもバックグラウンドは多様であり、保育士を幼いころから目指していた学生もおれば、資格取得を目的にきている学生もいる。そのような中で、保育者養成校学生と一括りに捉えるには限界があることもまた課題として挙げられる。本研究では、学生が幼いころにどのような夢を持っていたかは考慮していない。幼児期から一貫して保育者を目指していた人物と、そうでない人物とでは、同じ結果になるかは明らかではない。

他、テキストマイニングは単語で分解するため、「子どもが好き」などの文章は分解されるという欠点がある。「寄り添う」も「寄り添える」も別々で結果として現れることもあり、少なからず修正を要することも明らかとなった。

最後に、これは保育者養成校学生を対象とした研究である。研究の目的においても触れたが、一般の保育者像と保育士養成校学生の保育者像は区分されなければならないであろう。さらに精査するには、専門学科学生(保育者養成校学生)、新人、中堅、ベテランと分け分析を行うことも求められてくるのではないだろうか。今回は、これでいえば専門学科学生を対象とした研究であるため、今後はその他3つに関しても更なる検討を加えたい。

## 謝辞

本調査にご協力いただきました皆様につきまして、改めて感謝申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

## 参考文献

[1]厚生労働省「令和3年4月の待機児童数調査のポイント」<https://www.mhlw.go.jp/content/11922000/000840529.pdf>. 2021年12月28日取得。

[2]厚生労働省「令和2年度 児童相談所での児童虐待相談対応件数(速報値)」<https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000824239.pdf>. 2021年10月1日取得。

[3]テレビ西日本「中間市 送迎バスで園児死亡事故 保育園の前園長ら4人を書類送検 容疑認める 福岡県」<https://www.tnc.co.jp/news/articles/NID2021121712329>. 2021年12月28日取得。

[4]国立教育政策研究所「教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」」<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuyoku.html>. 2021年12月27日取得。

(農林水産省「3 ライフステージ別の現状と取組」[https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h30/h30\\_h/book/part1/chap1/b1\\_c1\\_1\\_03.html](https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h30/h30_h/book/part1/chap1/b1_c1_1_03.html). を参考。2021年12月27日取得。)

[5]菊野 春雄, 菊野 雄一郎, 李 琦, 山田 悟史(2017). 教師を目指す学生の理想的教師像に及ぼす性格的要因. 大阪総合保育大学紀要, 12, 63-72.

[6]User Local AI テキストマイニング「Q&A : よくご質問いただく項目と回答」[https://textmining.userlocal.jp/questions#data\\_q1](https://textmining.userlocal.jp/questions#data_q1). 2021年12月26日取得。

[7]豊田弘司・清水益治(1996). 大学生における保育者の理想像 男女差及び他の理想像との比較. 日本保育学会大会研究論文集 (49), 858-859.

[8]清水益治・豊田弘司(1996). 保育学生における理想の保育者像. 日本保育学会大会研究論文集 (49), 860-861.

(なお、本研究に開示すべき COI 関係にある企業等はありません。)

(Naoto WATANABE)